

ペトレ家 来庁

2月25日(月)、1912年にストックホルム五輪マラソンでレース中に倒れた故金栗四三氏(和水町出身)を介抱した、スウェーデン人家族の子孫4人が和水町を訪れました。

来町されたのは、金栗氏を助けたエルジエン・ペトレさん(故人)の孫のジオさん(75)、ひ孫のタチアナさん(39)とヨハンさん(31)、タチアナさんの次女のミカエラさん(10)。ヨハンさんが24日の東京マラソンに出場したのに合わせて来日され、玉名市の呼びかけで訪問が実現しました。

4人は役場本庁で、金栗さんのストックホルム五輪で使用したユニフォームや金栗足袋などを見学されました。

タチアナさんは「金栗さんはスウェーデンでとても有名な伝説的人物で、知らない人は誰もいない。これからも交流を続けていきたい」とほほ笑んでいらっしゃいました。



交流を続けていきたいと話されるタチアナさん



金栗マラソン大会の参加賞を記念にプレゼント

『幸せ実感!豊かなむらづくり大賞』優秀賞を なごみの里協議会が受賞

2月19日(火)、熊本県立劇場演劇ホールで『幸せ実感!豊かなむらづくり大賞』授賞式があり、津田・平野地区で地域活性化に取り組んでいる「なごみの里協議会」が優秀賞を受賞し、小野副知事から表彰状が授与されました。

今回の受賞は、「なごみの里協議会」の7年間にわたる里山再生を中心とした環境保全活動が評価されたものです。

「なごみの里協議会」は、平成18年度から、町が所有する「ふれあいの森」で町、富士電機(株)、県立大学と連携を取りながら里山再生活動「なごみの里プロジェクト」を実施されています



表彰された
「なごみの里協議会」会長 北原芳史さん

県公共関与産業廃棄物管理型最終処分場 環境保全協定書に調印

3月4日(月)、町と県、処分場を運営する県環境整備事業団が、県が南関町下坂下に建設する公共関与産業廃棄物管理型最終処分場に関する環境保全協定書を結びました。

調印後、坂梨町長は「内田区、長小田区の両区長様をはじめ、地元住民の皆様には大変な御心労・御苦勞があったと思う。県においては、和水町の苦渋の決断を真摯に受け止め、まちづくりに、なお一層のご支援とご協力をお願いしたい」と表情を引き締めました。

処分場は、処理水を川へ放流しない「クローズド・無放流型」で、今夏に着工し、平成27年度秋に完成予定です。



左から蒲島知事、坂梨町長、事業団理事長の村田副知事

日本消防協会から防災活動車(指令車)が交付

財団法人日本消防協会の福祉共済事業の一環として、和水町消防団のこれまでの防災活動が認められ、防災活動車が交付されました。

防災活動車が配備されたことで、火災などの災害の時、消防団長や幹部団員が災害現場に素早く到着することが可能となり、迅速な現場指揮が可能となります。

また、火災だけではなく、町内の危険箇所の巡回や情報の伝達の広報など、幅広い活用が見込めます。



交付された車両と高岡団長以下、幹部団員

地域づくり講演会を開催!!

3月18日(月)、中央公民館で地域づくり講演会が開催されました。

当日は、「なごみの郷高野」から、空き家を改修し都市との交流拠点づくりの取り組みなどを紹介され、「みどりの里上板楠」から、ひまわり油の抽出の取り組みなどを紹介されました。

また、熊本県立大学 澤田道夫准教授、(株)地域振興研究所 須川一幸氏による講演がありました。

参加者からは、「素晴らしい取り組み報告で勉強になりました。」「前向きで発想の豊かさに感心しました。」「自分もひまわりを栽培してみようと思いました。」などと感想をいただきました。



会場の様子